

能町さん 本県への愛語る

ユーモアたっぷり 青南高で講演会

青
森

「青森は推せるのか」をテーマに会場を沸かせた能町さん



本紙人気連載「ショッピン・イン・アオモリ」の著者である能町みね子さん（北海道出身）がこのほど青森市の青森南高校（久保田千夏校長）を訪れ、「青森は推せるのか」と題した講演会を開いた。同校の1・2年生と保護者、教職員が能町さんのユーモアあふれるトークに聞き入った。

「なぜ青森に来たの？ 何もないのに……」。県民は決まってそう言いつつ、良さをたくさん教えてくれるという。「魅力があふれているのに、なかなか言わない『ひねくれた郷土愛』がある県民が大好き」と本県への愛を語った。

ねぶた漬けと納豆をのせて食べる白米が好物だという能町さん。食べ物の話題から津軽弁の魅力、街を歩く中で感じた謎など、能町さんが持つ斬新な視点で繰り広げるトークは、生徒らの笑いを誘った。

講演後、能町さんは「ずっと青森に住んでいると、なかなか良さに気づかないかもしれない。高校生は進学などを機に青森の良さに気づいてほしい」と話した。

同校生徒会長の米倉蓮太郎さん（17）は岩手県出身で、小学校低学年に本県へ移住。「青森に住んで何年もたつが、津軽弁は今でも聞き取りづらい言葉。知れば知るほど青森は面白いと思った。自分の周りで興味深いことを探したい」と語った。

（木村真悠）

東奥日報 2025年（令和7年）3月14日（金）掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。